

【ACL 導入事例】

中堅建設エンジニアリング 様

監査活動から、ACL 導入までの経緯とその効果について、中堅建設エンジニアリングの内部監査部門に聞きました。

1964年設立された中堅建設エンジニアリング業社。非鉄製錬・銅箔製造プラント等の設計・建設ならびに各種商品等を販売する「エンジニアリング事業」及びパイプの開発・製造及び敷設工事ならびに各種製品等を販売する「パイプ・素材事業」を主たる事業として展開、北米やアジア各地を拠点として国内外に技術を提供しています。

■ 監査体制とその規模

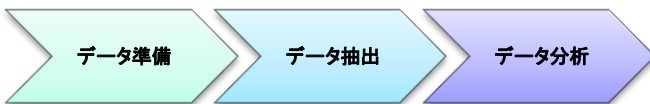
監査対象は、本社（本社、3支店、8営業所、1工場）と海外子会社3拠点を対象とし、監査対象となる会社の総売上は、年間200億円を超えています。

■ データ監査の必要性について

2012年より、企業会計審議会（金融庁）において、監査法人監査に際し、「監査における不正リスク対応基準」の審議が開始されたのを機に、不正リスクに対して企業内部で効果的に対応するためのツール導入の検討を開始しました。不正リスクの観点で精査できるツールの必要性があるという結論に至り、国内外で実績のある「データ監査ツール ACL」の導入を決定しました。

■ データ監査（分析）の基本的な考察

同社では、データ監査ツール導入により、データ監査の対象とするデータに対して、全件を分析することが可能になりました。



上記のデータ監査実施までのプロセス（流れ）を作り、総合的な監査の確立を目指しました。

【データ準備】

データ監査を対象とする項目を決定した後、最適なソースからデータを取得します。データの準備にあたっては、情報管理部門に依頼し、データ監査に必要なキーや項目を説明し、相互目標とする内容を共有し、データの取得に努めました。

【データ抽出】

データ監査対象データの抽出については、前段で記述した情報管理部門との連携と抽出条件の設定が重要な鍵となります。

データの抽出は、実際に起こった粉飾決算、脱税の不正研究事例などからリスクシナリオを作り上げ、想定しうる項目を様々な視点で検討し、抽出条件を考察していきます。

【データ分析】

[マクロ的視点] 異常値、トレンド、整合性を検証する俯瞰的な分析
[ミクロ的視点] 具体的なリスクシナリオに基づいた分析

■ リスクシナリオとデータ分析について

監査対象となるデータ全体の傾向・概観を把握するため、異常値、傾向値、整合性などの視点からマクロ分析を実施。さらに、リスクシナリオに基づき、より詳細、ピンポイントなミクロ分析を実施します。なお、合理的な理由に欠けるデータについては、質問、証憑の確認などを実施、内容の確認を行います。

マクロ分析:

異常値、トレンド、整合性を検証する俯瞰的な分析

ベンフォード分析	統計学上の異常値の発見	マクロ分析の場合、抽出したデータの結果に応じて、必要なドリルダウン分析を実施します。
階層化	伝票の入力時間、部署別	
分類化	部署別、勘定科目別	

ミクロ分析:

具体的なリスクシナリオに基づいた分析

リスクシナリオ	兆候・検証内容	キー項目	分類
人がいないはずの職場での伝票入力（深夜）	入力時刻が深夜に処理された伝票の内容確認	作成時間	不正
過去月度、年度の請求修正（辻褄合わせ）	伝票有無の確認	作成日	虚偽表示
決裁権限規定を回避するため、単一取引を分割して伝票処理	類似、同一の摘要の確認	取引先コード摘要	社内規定違反
重複した伝票の入力	仕訳、部署、同じ伝票	仕訳、部署	不正誤謬

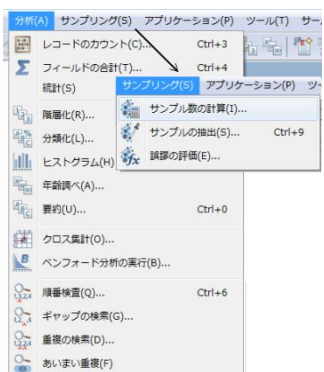
シナリオシートの作成。リスクシナリオ（仮説）を立て、システムからデータ取得できるものや課題等を整理していきます。

不正リスク対応監査のツールとしてACLを導入。
企業内の様々なデータ分析に威力を発揮、内部監査効率の向上はもちろん、データ監査スキルと監査の信頼性があわせて向上しました。

■ GAAT ツールの拡張性

ACLは、企業内の様々なデータ分析に有効なツールであることが実践で証明されました。

さらに、不正リスク監査の対応を目的に導入したACLではありませんが、非常に拡張性があり、また、膨大なデータであってもデータ全件をデータ分析の対象にすることが可能になりました。その結果、社内に眠っているデータを利益につながるデータとして活用することも可能になりました。



■ 応用事例紹介

データ監査ツールACLの導入により、様々なデータの可視化に成功し、リスク監査に留まることなくデータ監査をさらに追求し、その役割を確立することが可能になりました。以下は、その一例としてご紹介します。

I. 監査法人と同様の分析の手続きを事前実施

財務データ間または非財務データと財務データ間の予測可能な本来あるべき関係を緻密に分析することで、監査法人と同様の視点で、財務情報の合理性を確かめる手続きを事前に実施することが可能になりました。

監査法人が既にデータ監査ツールを使った事前監査をしており、同ツールを利用することで同視点で事前の確認が可能になりました。

- ・前期比較/予算対比/四半期のトレンド比較
- ・勘定科目間の分析
- ・ベンチマークとの比較など

II. 在庫削減、業務・資金の効率性を図る総合的指標 (リードタイム分析)

企業が運転資本の管理を如何に効率的に行っているかを評価するための指標として、キャッシュ・コンバージョン・サイクルがあるが、この分析の一環としてリードタイム分析を利用しています。

日数からの分析、工数・生産量対比、生産の効率性など、リードタイム分析によって、生産活動全体の総合的な効率性の測定に繋がる結果を得ることができました。

- ・適時、適切な生産計画が実行されているか確認
- ・作業時間の適切性(不効率な段取り、切替時間)の判断
- ・在庫量が適切であることの確認

総合的な生産の効率性のモニタリングが可能となりました。

■ ACL 導入によって

ACL導入により、柔軟なデータ監査が可能になり、監査領域がさらに拡大し、様々なデータ分析が可能になりました。

ACLは、不正リスク対応監査のツールとしての利用価値と同様に企業内の様々なデータを分析する強力なツールとして活用することが可能です。

1. 分析結果からさらに関連して他の分析をする際、ロジックの作成・変更を柔軟に行えるようになりました。

従来のデータ分析では、統廃合的な作業の繰り返しが多く、アクセスやエクセルでは頓挫になり、BIツールでは、既定の範囲でしか分析ができない状態でした。

2. データへの項目の追加やマスタの追加など、操作も簡単にでき、非常に自由度の高いツールであると感じています。

3. 簡単に作成できる「クロス集計機能」を利用することで、様々な分析が可能になり、データ監査の領域がさらに拡大しました。

データ分析時の着眼点

- ・リスク監査の場合
リスクシナリオ(仮説)に対応した適切な抽出条件と効率的な設定
- ・データ分析の場合
仮説を元にクロス集計する際、縦軸、横軸、集計項目に適切な項目を設定

ACLは、監査人の視点で設計されたとても自由度の高いツールであると感じました。

■ 今後の展開

- ・リスクシナリオ(仮説)を考えるスキルの向上と研究
- ・データを分析するスキル(統計リテラシー)の向上

データ監査をより有効なものとして運用するためには、もたらされる結果のアウトプットを出すだけではなく、その後の対応も重要なことであり、さらに堅実な監査体制を確立していく予定です。

※ ACL および ACL のロゴは ACL Services Ltd. の商標または登録商標です。
※ その他記載された会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

URL <http://www.acljapan.com/>

ACL もしくは事例内容に関するお問い合わせ先
ACL 事務局 info@agtech.co.jp



Smart Software, Smarter Deployment
株式会社エージーテック

東京都千代田区神田錦町1-21-1 ヒューリック神田橋ビル3F
TEL:03-3293-5300(代) FAX:03-3293-5270